



平成29年度 国立教育政策研究所 教育課程研究指定校ESD研究2年次研究報告

## ESD 研究主題 「批判的な思考力」等を地方創生のエネルギーとするESDの推進

本校の〈ESDの愛ことば〉  
E:いい社会を S:真剣考え D:誰もが幸せになる取組 ESD

大分県佐伯市立宇目緑豊中学校

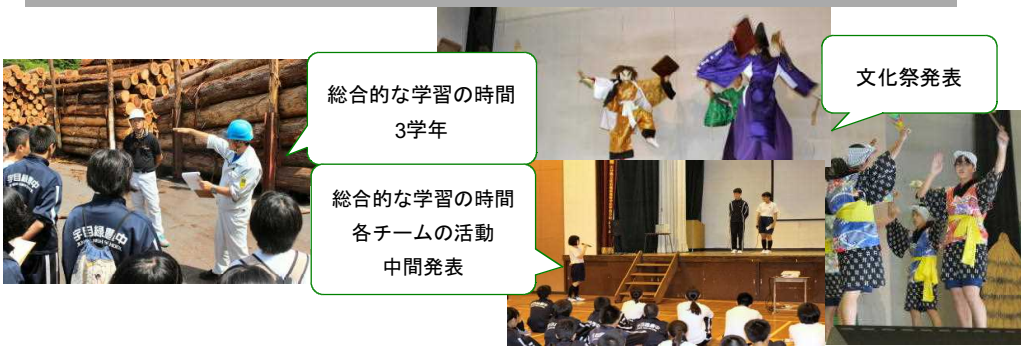
### 〈研究のキーワード〉

- ★ ESD
- ★ 批判的な思考力
- ★ ESD つけたい7つの力
- ★ 地方創生

### 〈求める生徒像〉

素朴で素直な生徒が多い中でESDを推進し、次のような生徒像に近づきたい。

- ①自分自身と地域、社会のかかわりに興味・関心をもつ生徒
- ②課題意識をもち、その解決に主体的に取り組む生徒
- ③仲間と協働し、創造的、批判的に思考し、行動する生徒



## 研究体制

次の3つのチームにより、地域に関わる魅力や課題について、総合的な学習の時間を中心に、教科や行事との関係について研究を進めた。

#### ○意識改善チーム (ESDについての意識を高める)

- ・ESDに関わる考え方(「課題を見いだすための6つの視点」「身に付けたい7つの力」等)や生徒、教職員の取組を、生徒や保護者に分かりやすく知らせるESD新聞
- ・生徒に身近な学校生活や地域の実態の中に課題を意識できるように、「このままでいいのかな?」という発想から生徒に問いかける校内掲示等

#### ○教科指導改善チーム

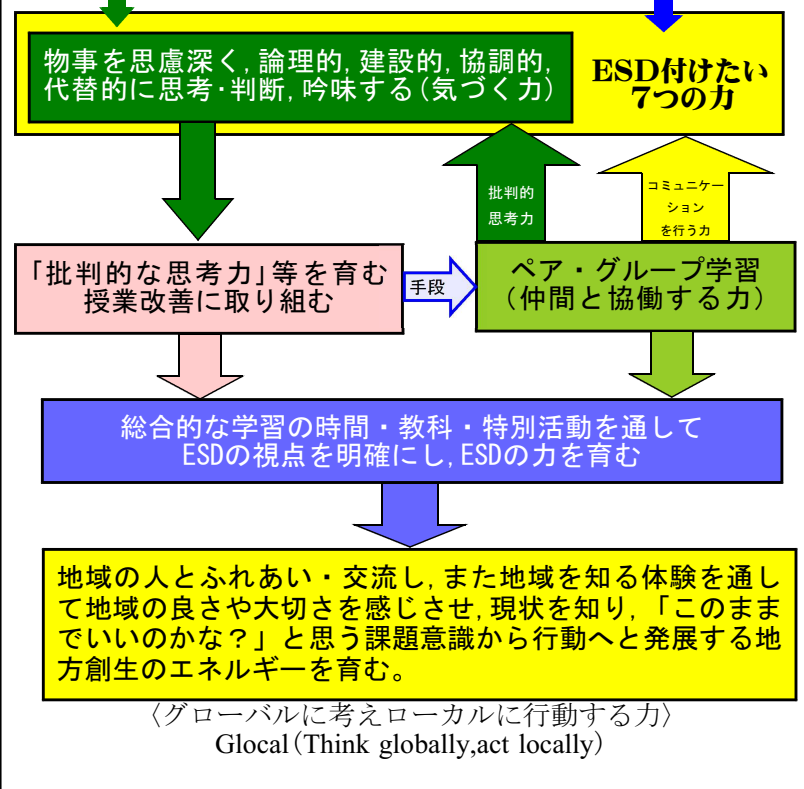
- (批判的に考える力、コミュニケーションを行う力を高める)
- ・グループ編成や活用についての共通理解
- ・各教科でのペア・グループ学習の実践、交流

#### ○ESDカレンダーチーム (教育課程とESDとの関連を捉える)

- ・総合的な学習の時間を中心に、各教科ごとに「課題を見いだす6つの視点」や「身に付けたい7つの力」を整理

## 研究主題

「批判的な思考力」等を地方創生のエネルギーとするESDの推進



### 〈地域の現状・特性〉

- 広大な森林を利用した林業や、山間の土地でのほおずき、スイトピー、椎茸栽培等が主な産業である。
- 地域の行政は、移住者のサポート充実に力を入れ、移住した人の中には特産物への情熱を持って、地域創生の力になっている人々がいる。
- 2017年ユネスコエコパークに認定された。自然との共生をめざし、動き始めたところであるが、若者は都市に移り住む傾向にあり、高齢化や過疎化が進んでいる。今後の地域創生が大きな課題になっている地域である。

## 成果と課題

- 3年生の総合的な学習の時間において地域と関わる中で、地域産業について「機械化が進んでいる」、「後継者が少なくなっている」といった気づきが芽生え、地域創生のエネルギーに関わる「課題意識」、現状からの「持続可能性」の視点を持った生徒が育ってきた。(授業後の生徒の感想から)
- 総合的な学習の時間や各教科等で、「身に付けたい7つの力」を生徒が意識できるよう明示したところ、特に「批判的な思考力」の向上が見られた。(これまでのアンケート結果及び教育事業者の開発モニターで行った調査結果から2年間(2・3年生)で約7割の生徒の意識が向上している。)
- 教科指導でのペア・グループ学習の取組では、PDCAサイクルを通して批判的思考力や協働的な学習に取り組もうとする意思や態度に向上が見られた。(アンケート結果から、協働しようとする意思を持つ生徒が約6割・主体的な生徒が約4割と向上傾向にある。)
- ▲生徒の批判的な思考力は向上してきたが、行動として動き出す力はまだ不足している。それはESDの視点を通して課題が何であるかを把握する力の育成がまだ十分でないことが上げられる。今後そのための取組の改善及び研修の継続が必要である。
- ▲互見授業のふり返りで、各教科の特性上グループ活動に差が見られることがわかった。協働的な学習での生徒の役割等、各教科に沿った効果的な活動の工夫・改善が必要である。今後PDCAサイクルをとって取り組む課題である。
- ▲ESDカレンダーは、資質能力表とともに本年度完成させることができたがESDカレンダーの活用については、まだ十分とは言えず、今後教科間の連携を行いつつ活用に努める必要がある。

〈ESD〉 [Education for Sustainable Development] は、

「持続可能な開発のための教育」と訳されており

課題を見いだすための6つの視点(構成概念)は以下のとおり

I 多様性 II 相互性 III 有限性 IV 公平性 V 連携性 VI 責任性

〈重視する能力態度として〉  
【身に付けたい7つの力】

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度

「SDGs」(エスディージーズ)

Sustainable Development Goals

「持続可能な開発目標」である。

「世界の貧困をなくそう」から始まり、「世界の環境や平和」「差別をなくす」等、人類や地球全体に関わる17項目の目標である。



# ESDカレンダー

ESDの視点に基づき、教科横断的なカレンダーを作成した。作成の意図は、研究の柱となる総合的な学習の時間と各教科の指導のつながりを明確にすること。さらには、指導の時期や指導内容を教科担当者が共有でき、連携した指導を可能にすることにより、「ESD付けたい7つの力」を身につける上での相乗効果が期待されることである。

カレンダー作成手順は以下の通りである。

- ① 周りの自然や伝統、人材、生物、産業など本校をとりまく環境に目を向け、ESDと関連する4つの項目に着目した。
- ② 総合的な学習の時間は4つの項目を扱うことにした。

- ③ 4つの項目と関係する単元(指導内容)を各教科でピックアップした。
- ④ 選んだ単元を通じて付けたい7つの力を明らかにし、「批」「協」「つ」などの略語で示した。
- ⑤ 特に、総合的な学習の時間の内容と深い関わりがあると判断される単元は、太線で囲み、強調した。

ESDカレンダーの活用については模索中であるが、教科担当者が、互いにカレンダーを見て、学習内容を確認し合うことことで、初めて価値が生み出されるものである。まずは、目に付きやすい提示方法、授業者の意識の向上などから着手していきたいと考えているところである。

(ESDカレンダーは別紙資料添付)

# 教科指導改善

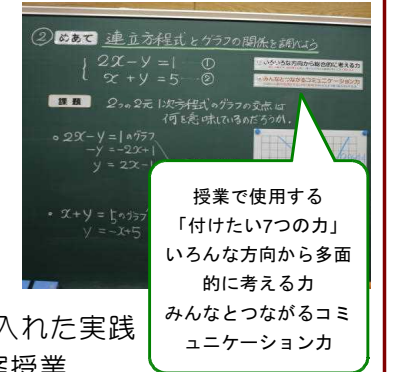
教科指導改善チームは、「付けたい7つの力」の中で特に「批判的に考える力」、「コミュニケーションを行う力」の向上を目指し、ペア・グループ学習に注目した。

ペア・グループ学習は、生徒相互のコミュニケーションを引き出す。「正しさ」が約束され、一方的な伝達となりがちな教師の言葉とは異なり、仲間とのやり取りの中での言葉は、内省的に吟味され、より整理され変化し、さらに発せられる言葉である。このようなコミュニケーションを促すペア・グループ学習を充実させることが、「批判的に考える力」を向上させると考えた。



これまでの取組は次の通り。

- ① 研修による教師の共通理解
  - ・ペア・グループ学習の意義と編成の方法
  - ・グループ技法
- ② ペア・グループ学習を取り入れた実践
  - ・各教科、校内において提案授業
  - ・めあてと共に「付けたい力」を明示
  - ・意識化するための「生徒や教師による振り返り」



7月の調査による生徒の自己評価によると、「聞くこと」「協力すること」に比べると、「発信すること」の評価が低かったが、10月には「発信すること」について若干の改善が見られた。

# 意識改善

意識改善チームでは、研究を進める上で、持続可能な社会へつながる意識を高めることが重要と考え取組を進めた。

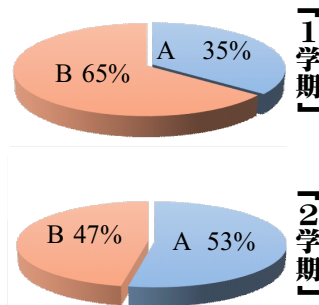
ESDをなるべくわかりやすく伝えるために、「緑豊中学校ESD愛ことば」を設定し、次のような取組を行った。

- 「ESD付けたい7つの力」を教科で意識し授業で明示
- 「ESD新聞」の発行
- 研修会の実施(講師を招いての研修)
- 保護者への説明会の実施
- 生徒会から発信するESDの取組

- 「このままでいいのかな?」の取組
- ESDの意識調査(付けたい7つの力に関わる意識調査を年3回実施)

本校の取組では、地域と深く関わり、その良さや課題を見つける意識が大切である。また一般的なゴールとしてSDGsも提示して意識改善に取り組み Glocal につながる取組を意識して意識改善に臨んだ。

アンケート調査から、教科等の取組で「批判的な思考力」の意識が高まったことが確認できた。



「アンケート調査」から「付けたい7つの力意識調査」から①「批判的な思考力」について  
 A「十分ある」は、力がついてきた  
 B「あまり変化はない」または「わかっていない」と回答した生徒

# 生徒の声

- 〈自然体感キャンプ〉1年生  
 ○たくさん虫やたくさん植物がある中でキャンプをすることはなかなかできないことなので、体いっぱい使って自然の良さを感じ、宇目はすごかったです。  
 ○豊かな自然と人が一緒になって生きているのがすごいです。
- 〈九州大学訪問〉2年生  
 ものすごくエコで素敵だったなと思いました。緑が多いことは学生にとっても心を落ち着かせる効果などがあり、プラスになると思うし、環境的にも良いものなので、九大だけでなく都会の街づくりでも取り入れると良いのではないかなと思いました。将来的に九大のような自然を貴重な物として大切に扱う場所が増えれば持続可能な社会は実現されていくと思います。
- 〈地域産業見学〉3年生  
 地域産業を見学し、宇目の中で知らないことが多く、改めて、人々が仕事に対してどのような思いがあるのかを知ることができました。また地域の課題として、魅力的な産業があるのに地域人口や労働者が減っている現実を知り、このままでいいのかなと感じています。

# 行事の取組

行事をESDの視点から取り組んだ。

◎地域を知る取組・人材の活用

【自然体感キャンプ】  
 自然と人間の共生を謳う「ユネスコエコパーク」の認定を受けた本地域は、生物多様性を学ぶことや、その豊かな自然を体感できる素晴らしい地域である。しかし生徒の生活の中では、こうした自然を体感する機会が少ない現状がある。

本地域出身のアルピニストのチームから学ぶ体感キャンプ。生徒は地域の豊かな自然を感じ、地域の価値を再認識した。地域への情熱を持つ人々との出会いや、つながりを通して地域を思うエネルギーがこうした場を通して育成されると考える。

生徒は関わり、つながるESDの力の大切さを学び、自然と一体となる感覚を味わうことができたのである。



◎大学との連携

【九大伊都キャンパス訪問】  
 8月の終わりに九州大学伊都キャンパスを全校生徒で訪問した。佐伯市が「まちづくり」の一貫として九州大学と提携しており、こうしたESDに関わる訪問の機会に恵まれた。

伊都キャンパスはESDの視点に基づいて考えられ大学が移転。

生物多様性や森林の割合を壊さずに丘や森を活かした移転を実現。生徒は大学教授の案内や説明を聞きながら夏の日を過ごした。移動中の都市の景色や、高速道路から見られる朝倉市の豪雨災害の爪跡。こうした体験学習から課題を見つけ、考える生徒も始めている。

持続可能な開発のために、様々な視点から良さに気づき、また課題に気づく場の設定はとても大切である。特にESDでは「付けたい7つの力」や、持続可能な開発目標(SDGs)を意識させたりすること、持続可能な社会の形成、成人の意識の向上、教育の充実、地域の活性化などが期待されている。

